

# 平成30年第8回富山県教育委員会議事日程

7月17日（火）午後1時00分

教育委員会室

## 1 会議録の承認について

平成30年6月4日開催の平成30年第7回富山県教育委員会会議録の承認について

## 2 議決事項

(1) 議案第16号 平成31年度富山県立学校募集定員等決定の件

## 3 報告事項

(1) 「富山県学校施設長寿命化計画」の策定について

(2) 県立学校におけるブロック塀などの工作物の緊急点検の結果について

(3) 平成31年度富山県公立学校教員採用選考検査志願状況について

(4) 平成30年度中学校第3学年生徒及び県立高等学校全日制課程第3学年生徒の進路希望調査結果について

## 4 その他

今後の教育委員会等の日程について

## 5 議決事項

(1) 議案第17号 富山県美術館運営委員会委員任命の件

(2) 議案第18号 富山県水墨美術館運営委員会委員任命の件

(3) 議案第19号 富山県立山博物館運営委員会委員任命の件

(4) 議案第20号 情報公開制度に基づく不服申立手続きに対する決定の件

(5) 議案第21号 平成31年度富山県立高等学校及び富山県立特別支援学校高等部・幼稚部の入学者選抜日程決定の件

## 6 報告事項

(1) 臨時代理について(平成31年度使用義務教育諸学校用教科用図書採択の件)

議案第 16 号

平成 31 年度富山県立学校募集定員等決定の件

平成 31 年度富山県立高等学校全日制課程、定時制課程、通信制課程及び専攻科並びに  
特別支援学校の募集定員等を別紙のとおり決定する。

平成 30 年 7 月 17 日 提出

富山県教育委員会

教育長 渋谷 克 人

平成 31 年度 富山県立高等学校全日制課程第 1 学年募集定員

学校名	学科名	募集定員		備考
		学級	定員	
泊	普通	3	120	観光ビジネスコース
入善	普通	3	120	自然科学コース
	農業	1	30	
桜井	普通	3	120	帰国生徒5
	土木	1	40	
	生活環境	1	40	
魚津	普通	4	160	
魚津工業	機械	2	80	
	電気	1	40	電子機械コース
	情報環境	1	40	化学工業コース
滑川	普通	2	80	
	薬業	1	40	
	商業	1	40	
	海洋	1	40	
上市	総合	4	160	
雄山	普通	3	120	
	生活文化	1	40	
中央農業	生物生産	3	90	作物科学コース
	園芸デザイン			動物科学コース
	バイオ技術			園芸福祉コース
八尾	普通	4	160	福祉コース
富山西	普通	4	160	
富山	普通	5	200	
	理数科学	2	80	探究科学科
	人文社会科学			
富山中部	普通	5	200	
	理数科学	2	80	探究科学科
	人文社会科学			
富山北部	普通	3	120	
	くすり・バイオ	1	40	
	情報デザイン	1	40	
富山工業	機械工学	2	80	
	電子機械工学	1	40	
	金属工学	1	40	
	電気工学	2	80	
	建築工学	1	40	
	土木工学	1	40	
富山商業	流通経済	2	80	
	国際経済	1	40	
	会計	2	80	
	情報処理	2	80	
富山いづみ	総合	4	160	
	看護	1	40	
富山東	普通	6	240	自然科学コース約40
富山南	普通	5	200	国際コース
水橋	普通	3	120	体育コース約40
呉羽	普通	6	230	音楽コース約30

学校名	学科名	募集定員		備考
		学級	定員	
小杉	総合	3	120	
大門	普通	3	120	情報コース
	普通	3	120	
新湊	商業	1	40	
	普通	5	200	
高岡	理数科学	2	80	探究科学科
	人文社会科学			
高岡西	普通	3	120	人間福祉コース
高岡工芸	機械	1	40	土木工学コース 環境化学コース
	電子機械	1	40	
	電気	1	40	
	建築	1	40	
	土木環境	1	40	
	工芸 デザイン・絵画	1	30	
高岡商業	流通経済	2	80	
	国際経済	1	40	
	会計	1	40	
	情報処理	1	40	
伏木	国際交流	3	120	中国語コース 韓国語コース ロシア語コース
高岡南	普通	4	160	人文科学コース
福岡	普通	3	120	英語コース
氷見	普通	3	120	
	農業科学	1	40	
	海洋科学	1	40	
	ビジネス 生活福祉	1	40	
砺波	普通	4	160	
砺波工業	機械	2	80	
	電気	1	40	
	電子	1	40	
南砺福野	普通	3	120	
	農業環境 福祉	1	30	
南砺平	普通	1	31	
南砺福光	普通	2	80	
	国際	1	30	
石動	普通	3	120	
	商業	1	40	
合計		172	6,781	

※ 備考欄の「○○コース約△△」及び桜井高校普通科の「帰国生徒5」は、定員の内数である。  
また、コース名のみは、2年次に開設するものである。

学科等区分別募集定員

区分	普通	探究科学	国際	農業	水産	工業	商業	家庭	看護	福祉	総合	総計
学級数	96	6	4	6	2	26	17	3	1	1	11	173
募集定員	3,821	240	150	170	60	1,030	680	120	40	30	440	6,781

※ 氷見高校の農業科学科と海洋科学科は、農業と水産のそれぞれに 1 学級として集計

※ 探究科学科は、理数科学科と人文社会科学科の 2 学科の総称

別紙 2

平成31年度  
富山県立高等学校定時制課程第1学年募集定員

学校名	学科名	募集定員	備考
新川みどり野	普通	約 120	} 単位制
	福祉教養	約 40	
富山工業	機械	約 40	
	電気	約 40	
	生産機械	約 40	
雄峰	普通	約 200	} 単位制
	情報ビジネス	約 40	
	生活文化	約 40	
志貴野	普通	約 80	} 単位制
	国際教養	約 40	
	情報ビジネス	約 80	
	生活文化	約 40	
小矢部園芸	園芸	約 40	単位制
となみ野	普通	約 80	} 単位制
	総合福祉	約 40	
合計		約 960	

平成31年度  
富山県立高等学校通信制課程第1学年募集定員

学校名	学科名	募集定員	備考
雄峰	普通	} 約 300	} 単位制
	衛生看護		
合計		約 300	

平成31年度  
富山県立高等学校専攻科第1学年募集定員

学校名	学科名 コース・課程名	募集定員	備考
中央農業	農業 ・担い手育成コース	約 10	
	・庭園コース	約 10	
富山いずみ	看護	40	富山いずみ高校 看護科卒業者を対象とする。
雄峰	生活科学 ・調理師養成課程	60	
小矢部園芸	園芸	約 40	
合計		約 160	

大学科別内訳	普通	約 480
	国際	約 40
	農業	約 40
	工業	約 120
	商業	約 120
	家庭	約 160

## 別紙 3

## 平成 31 年度富山県立特別支援学校高等部及び高等部専攻科第 1 学年募集人員 (定員)

学 校 名	学 科 等	障害種別	修業年限	募集人員 (定員)	
富山視覚総合支援学校	普通科	視覚障害	3	約 10	
		病弱	3	8	
	保健医療科		3	約 10	
	専攻科	理 療 科	視覚障害	3	約 10
		保健医療科		3	約 10
富山聴覚総合支援学校	産業工芸科	聴覚障害	3	約 10	
	生活情報科				
	機 械 科				
	福祉・サービス科	知的障害	3	8	
	専攻科	産業工芸科	聴覚障害	2	約 10
生活情報科					
機 械 科					
高岡聴覚総合支援学校	機 械 科	聴覚障害	3	約 10	
	生活情報科				
	福祉・サービス科	知的障害	3	8	
にいかわ総合支援学校	産業技術科	知的障害 肢体不自由	3	約 20	
	生活文化科			若干名	
	訪問教育				
しらとり支援学校	産業技術科	知的障害	3	約 30	
	生活文化科				
富山高等支援学校	生産・サービス科	知的障害	3	24	
高岡支援学校	産 業 科	知的障害	3	約 30	
	生活文化科			若干名	
	訪問教育				
高岡高等支援学校	生産・サービス科	知的障害	3	24	
となみ総合支援学校	産業技術科	知的障害 肢体不自由	3	約 20	
	生活文化科			若干名	
	訪問教育				
富山総合支援学校	産業工芸科	知的障害	3	8	
	生活文化科				
	産業工芸科	肢体不自由	3	約 10	
	生活文化科			若干名	
訪問教育					
高志支援学校	普通科	肢体不自由	3	約 10	
ふるさと支援学校	普通科	病弱	3	約 10	
	訪問教育			若干名	
合 計				約 280 + 若干名	

## 平成 31 年度富山県立特別支援学校幼稚部入学者募集人員

学 校 名	障害種別	学 年	募集人員
富山視覚総合支援学校	視覚障害	3 歳 児	若干名
		4 歳 児	若干名
		5 歳 児	若干名
富山聴覚総合支援学校	聴覚障害	3 歳 児	若干名
		4 歳 児	若干名
		5 歳 児	若干名
高岡聴覚総合支援学校	聴覚障害	3 歳 児	若干名
		4 歳 児	若干名
		5 歳 児	若干名
合 計			若干名

平成31年度県立学校募集定員等の概要

I 高等学校 全日制課程

1 基本的な考え方

- (1) 1学級の生徒数は40人を標準とする。
- (2) 募集率は中学校卒業予定者の71.0%程度とする。
- (3) 普通科割合（総合学科を除く）は66%程度とする。

2 募集定員 38校 6,781人（平成30年度に比べ43人減）

3 学級増減等

区 分		全 県	新川学区	富山学区	高岡学区	砺波学区
中卒予定者数 <sup>註</sup> [人]		9,552	1,835	3,893	2,705	1,119
学級増減等	普通系学科	+1	桜井 +1	富山北部+1		砺波 ▲1 <small>南砺平 定員▲3人</small>
	職業系学科	▲1	—	—	高岡商業▲1 (情報処理)	—
	総合学科	▲1	—	—	小杉 ▲1	
合 計		▲1	+1	+1	▲2	▲1
募集定員 [人]		6,781	1,310	2,760	1,910	801
募集率 [%]		71.0	71.4	70.9	70.6	71.6

註) 平成30年5月1日現在の県内中学3年生の在籍者数である。

II 高等学校 定時制課程、通信制課程、専攻科

[募集定員]

- (1) 定時制課程 6校 約960人 (平成30年度と同じ)
- (2) 通信制課程 1校 約300人 (平成30年度と同じ)
- (3) 専攻科 4校 約160人 (平成30年度と同じ)

III 特別支援学校 高等部及び高等部専攻科、幼稚部

[募集人員]

- (1) 高等部 12校 約250人+若干名 (平成30年度と同じ)
- 高等部専攻科 2校 約30人 (平成30年度と同じ)
- (2) 幼稚部 3校 若干名 (平成30年度と同じ)

# 「富山県学校施設長寿命化計画」の策定について

平成 30 年 7 月 17 日  
教 育 企 画 課

県立学校施設の長寿命化計画について、このたび、別添のとおり取りまとめましたのでご報告いたします。

なお、策定した計画（概要版）については、県HPに掲載し、公表いたします。

## 1 策定の目的

高校教育、特別支援教育の一層の充実強化を図るため、「施設・設備」面における教育環境の質的改善・機能向上及び整備に要するコストの縮減と平準化を目的として策定するもの

## 2 計画の概要

### (1) 対象施設数及び計画期間

対象施設：県立学校 56 校、466 棟、65.1 万㎡（ただし、再編統合 4 校は今後の費用試算から除く）

計画期間：平成 30～39 年度（10 年間）、5 年毎に計画見直し

設計等の準備期間（平成 31 年度 基本設計、平成 32 年度 実施設計）を経て、33 年度より本格的な長寿命化改修を実施予定

### (2) 「建替型」から「長寿命化型」への転換効果

① 約 20 年の周期で、教育環境の質的改善・機能向上が図られる  
（従来は 30 年程度で大規模修繕）

② 建替型に比べ、約 20%のコスト縮減が可能

耐用年数を迎えた施設を全て整備対象とした場合、

築 40 年で建替(改築)した場合：今後 40 年間で 3,387 億円（84.7 億円/年）が必要

築 80 年まで長寿命化した場合：今後 40 年間で 2,706 億円（67.7 億円/年）に圧縮

過去 5 年平均の施設関連経費 48.5 億円/年を踏まえ、施設状況に応じた施工時期の見直しや整備水準、施工範囲の再検討などにより、さらなる事業費水準の引下げ・平準化を図る

## 3 今後の予定

具体的な学校や対策等、事業詳細については毎年度の予算編成過程などを経て決定

## 県立学校におけるブロック塀などの工作物の緊急点検の結果について

平成 30 年 7 月 17 日  
教 育 企 画 課

大阪府北部を震源とする今般の地震によるブロック塀の倒壊事案を受けて、緊急に実施した標記点検結果についてご報告します。

### 記

#### 1 調査の概要

- (1) 調査期間 平成 30 年 6 月 19 日(火)～6 月 22 日(金)
- (2) 点検対象校 56 校(高等学校 43 校 特別支援学校 13 校)
- (3) 点検対象 学校施設におけるブロック塀を含む工作物及び通学路上のブロック塀

#### 2 点検結果

(1) 学校施設(詳細は別紙のとおり)

区分	通学路に面しているもの		通学路に面していないもの	
	建築基準法施行令第 61 条又は第 62 条の 8 に違反するおそれのあるもの	著しいひび割れ、破損又は傾斜が生じているもの	建築基準法施行令第 61 条又は第 62 条の 8 に違反するおそれのあるもの	著しいひび割れ、破損又は傾斜が生じているもの
ブロック塀	0 件	0 件	5 件(4 校)	0 件
その他工作物	/	0 件	/	2 件(2 校)
計	0 件	0 件	5 件(4 校)	2 件(2 校)

※太枠が国の点検対象

(2) 通学路上のブロック塀

著しいひび割れ、破損、傾斜が認められるもの 55 箇所(22 校)

#### 3 対応

- (1) 学校施設 対応が必要な施設については、直ちに、補強や撤去などの安全対策を講ずる。
- (2) 通学路 ブロック塀の所有者に事前に周知したうえで、必要がある箇所については、生徒に対して注意喚起を行う。



## ○通学路に面していない学校施設

## 1 建築基準法施行令に違反するおそれがあるブロック塀

①対象施設：高岡西高校 テニスコート北側ブロック塀

※通学路ではなく、テニス部員（約30名）が通行するもの

現 状：控壁の間隔 法基準3.4m ⇒ 現状3.6m

※法改正等により、現行法基準を満たさなくなった状態

②対象施設：高岡商業高校双龍ハウス(食堂)東側境界ブロック塀

※通路上になく、通常は塀周辺を生徒が通行しないもの

現 状：控壁の間隔 法基準3.4m ⇒ 現状3.8m

※法改正等により、現行法基準を満たさなくなった状態

③対象施設：南砺福野高校志学館東側境界ブロック塀(継足部分約4.5m)

※通路上になく、通常は塀周辺を生徒が通行しないもの

現 状：控壁の間隔 法基準3.4m ⇒ なし

④対象施設：南砺福野高校北山田農場正面ブロック塀

※一般道に面しており、農場に生徒が週3回程度、実習に訪れているもの

現 状：控壁の間隔 法基準3.4m ⇒ 現状30m(2ヶ所のみ)

⑤対象施設：魚津高校図書館東側境界ブロック塀(全長約6m)

※通路上になく、教員用駐輪場と民有地の間にあるもの

現 状：控壁の間隔 法基準3.4m ⇒ なし

2 著しいひび割れ、破損又は傾斜が生じているブロック塀以外の工作物

①対象施設：上市高校 グランド出入口階段擁壁(高さ 90 c m)

※グラウンドの出入りに生徒が通行するもの

現 状：傾斜及び一部破損

②対象施設：南砺福野高校北山田農場の門柱

※一般道に面しており、農場に生徒が週 3 回程度、実習に訪れているもの

現 状：<sup>かさいし</sup>傘石部の一部破損

## 平成31年度富山県公立学校教員採用選考検査 志願状況について

## 1 概要

- ・募集期間 平成30年5月16日(水)～6月1日(金)
- ・採用予定者数(A) 300人程度
- ・志願者総数(B) 929人 志願倍率(B/A) = 3.1

## 2 種目別志願者数

種 目	小 学 校		中 学 校 高 等 学 校		特別支援学校A		特別支援学校B		養 護 教 諭		総 数		
	H30	H31	H30	H31	H30	H31	H30	H31	H30	H31	H30	H31	
一般選考	331	324	521	433	29	29	13	14	72	62	966	862	
特別選考	社会人 経験	6	3	16	23	1	1	-	-	6	2	29	29
	教職経験	8	6	13	4	0	0	-	-	0	1	21	11
	特定資格	0	0	8	8	1	0	-	-	0	0	9	8
	国際貢献	0	0	1	0	0	0	-	-	0	0	1	0
	スポーツ 実績	-	-	21	19	-	-	-	-	-	-	21	19
	身体障害	0	0	0	0	2	0	-	-	0	0	2	0
計	345	333	580	487	33	30	13	14	78	65	1,049	929	
前 年 比	人数[人]	-	△ 12	-	△ 93	-	△ 3	-	1	-	△ 13	-	△ 120
	[%]	-	△ 3.5	-	△ 16.0	-	△ 9.1	-	7.7	-	△ 16.7	-	△ 11.4

※特別支援学校Bは、H24から開設

## 3 志願者総数における男女内訳

年 度	平成30年度		平成31年度		前年比(H31-H30)	
	男	女	男	女	男	女
人 数[人]	544	505	482	447	△ 62	△ 58
構成比[%]	51.9	48.1	51.9	48.1	-	-

## &lt;参考&gt;

## 1 志願者総数の年度別推移

年 度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
志願者数[人]	1,108	1,221	1,192	1,206	1,141	1,159	1,092	1,105	1,049	929
採用予定者数[人]	210	300	285	290	320	325	310	300	300	300
倍率[倍]	5.3	4.1	4.2	4.2	3.6	3.6	3.5	3.7	3.5	3.1

(採用予定者数には特別選考を含む)

## 2 検査の日程

- 1次検査 7月21日(土) 7月22日(日)
- 2次検査 8月25日(土) 8月26日(日)

# 平成 30 年度中学校第 3 学年生徒の進路希望調査結果

— 平成 30 年 5 月 1 日現在 —

平成 30 年 7 月 17 日

県立学校課

平成 31 年 3 月に県内の国立(1 校)・公立(79 校 1 分校)・私立(1 校)中学校を卒業する予定の生徒について、平成 30 年 5 月 1 日現在における進路希望状況を調査した結果は、次のとおりである。

## 1 卒業予定者数及び進路希望状況

- 卒業予定者は 9,552 人で、前年同期と比べ 107 人減少。
- 進学希望者の割合は 98.7%で、前年同期と比べ 0.2 ポイント低下。

- ・ 平成 31 年 3 月の卒業予定者は 9,552 人(男 4,885 人・女 4,667 人)で、前年同期と比べ 107 人減少(男 91 人減少・女 16 人減少)している。
- ・ 進学希望者は 9,427 人(男 4,813 人・女 4,614 人)で、前年同期と比べ 129 人減少(男 95 人減少・女 34 人減少)している。進学希望者の卒業予定者に対する割合は 98.7%で、前年同期と比べ 0.2 ポイント低下している。
- ・ 専修学校等希望者は 10 人(男 3 人・女 7 人)で、前年同期と比べ 8 人増加している。
- ・ 就職希望者(進学希望者及び専修学校等希望者の内の就職希望者を含む)は 26 人(男 18 人・女 8 人)で、前年同期と比べ 13 人増加している。就職希望者の卒業予定者に対する割合は 0.3%で、前年同期と比べ 0.2 ポイント上昇している。

< 第 1 表 > 進路希望状況

年度	実 数 (人)						割 合 (%)		
	卒 業 予 定 者 a	進 学 希 望 者 b	専 修 学 校 等 希 望 者 c	就 職 希 望 者 d	未 定 者 e	(再掲) bcの内 就 職 希 望 者 f	進 学 希 望 率 b/a	専 修 学 校 等 希 望 率 c/a	就 職 希 望 率 (d+f)/a
26	10,189	10,097	8	13	71	3	99.1	0.1	0.2
27	10,103	10,010	4	19	70	0	99.1	0.0	0.2
28	10,116	10,003	4	20	89	1	98.9	0.0	0.2
29	9,659	9,556	2	11	90	2	98.9	0.0	0.1
30	9,552	9,427	10	25	90	1	98.7	0.1	0.3

## 2 進学先別希望状況

- 県内県立高等学校全日制課程を希望する者の割合は 87.1%で、前年同期と比べ 1.3 ポイント低下。

- ・ 県内県立高等学校全日制課程を希望する者は 8,316 人(男 4,163 人・女 4,153 人)で、前年同期と比べ 226 人減少している。卒業予定者に対する割合は 87.1%で、前年同期と比べ 1.3 ポイント低下している。

<第2表> 進学先別希望状況

単位：上段は% 下段は人

年度	区分	卒業予定者数	進学希望者数	全日制課程		定時制課程	通信制課程	高等専門学校	特別支援学校
				全体	内 県内 県立高校				
26	割合	100.0	99.1	93.4	88.2	2.0	0.1	3.0	0.6
	実数	10,189	10,097	9,520	8,989	202	12	303	60
27	割合	100.0	99.1	92.9	87.5	2.3	0.2	3.0	0.6
	実数	10,103	10,010	9,389	8,845	232	18	307	64
28	割合	100.0	98.9	93.1	87.9	1.8	0.1	3.3	0.6
	実数	10,116	10,003	9,417	8,890	178	10	337	61
29	割合	100.0	98.9	93.5	88.4	1.7	0.1	3.0	0.6
	実数	9,659	9,556	9,029	8,542	169	13	287	58
30	割合	100.0	98.7	92.6	87.1	2.0	0.2	3.1	0.8
	実数	9,552	9,427	8,846	8,316	189	23	297	72

(注) 上段は各進学先別希望者数の卒業予定者数に対する割合である。なお、端数処理のため、各割合を合計しても100.0%にならない場合がある。

### 3 全日制高校への学科等区分別希望状況

○ 県内県立高等学校全日制課程の普通系学科（普通科、探究科学科、国際科）希望者の割合は65.8%で、前年同期と比べ2.3ポイント低下。職業系専門学科希望者の割合は27.1%で1.8ポイント上昇。総合学科は7.1%で0.5ポイント上昇。

- ・ 県内県立高等学校全日制課程への進学希望者の学科等区分別希望状況は、普通科が61.0%と最も多く、次いで工業科13.3%、商業科8.5%、総合学科7.1%、となっている。なお、前年同期と比べ希望者の割合が上昇している学科は、探究科学科(0.8ポイント)、国際科(0.2ポイント)、工業科(0.7ポイント)、商業科(1.1ポイント)、看護科(0.2ポイント)、総合学科(0.5ポイント)である。

<第3表> 全日制高校への学科等区分別希望状況

単位：上段は% 下段は人

年度	区分	合計	普通系学科				職業系専門学科									総合学科	その他
			普通科	探究科学科	国際科	計	農業科	水産科	工業科	商業科	家庭科	看護科	福祉科	計			
※全体	29	割合	100.0	65.7	2.9	0.8	69.4	1.6	0.6	12.1	7.0	1.8	0.8	0.4	24.3	6.2	0.1
		人数	9,029	5,931	264	69	6,264	141	50	1,091	634	165	76	38	2,195	561	9
	30	割合	100.0	62.8	3.7	0.9	67.4	1.4	0.6	12.6	8.0	1.8	1.0	0.4	25.8	6.7	0.1
		人数	8,846	5,557	327	76	5,960	124	51	1,118	707	158	90	35	2,283	593	10
内 県 内 県 立 高 校	29	割合	100.0	64.3	3.1	0.7	68.1	1.7	0.6	12.6	7.4	1.8	0.9	0.4	25.3	6.6	
		人数	8,542	5,491	264	63	5,818	141	50	1,075	634	150	76	38	2,164	560	
	30	割合	100.0	61.0	3.9	0.9	65.8	1.5	0.6	13.3	8.5	1.8	1.1	0.4	27.1	7.1	
		人数	8,316	5,070	327	73	5,470	124	51	1,104	706	147	90	34	2,256	590	

※ 私立高校・県外高校を含む。

(注) 上段は各学科等区分別希望者数の合計に対する割合である。なお、端数処理のため、各割合を合計しても100.0%にならない場合がある。

# 平成30年度県立高等学校全日制課程第3学年生徒の進路希望調査結果

— 平成30年5月1日現在 —

平成30年7月17日  
県立学校課

平成31年3月に県立高等学校全日制課程(37校1分校)を卒業する予定の生徒について、平成30年5月1日現在における進路希望状況を調査した結果は、次のとおりである。

## 1 卒業予定者数及び進路希望状況

- 卒業予定者は、6,991人で、前年同期と比べ56人減少。
- 進学希望者の割合は67.8%で、前年同期と同じ。

- ・ 平成31年3月の卒業予定者は6,991人(男3,438人・女3,553人)で、前年同期と比べ56人減少(男106人増加、女162人減少)している。
- ・ 進学希望者は4,740人(男2,306人・女2,434人)で、前年同期と比べ35人減少している。進学希望者の卒業予定者に対する割合は67.8%で、前年同期と同じである。
- ・ 専修学校等希望者は937人(男280人・女657人)で、前年同期と比べ17人減少している。専修学校等希望者の卒業予定者に対する割合は13.4%で、前年同期と比べ0.1ポイント低下している。
- ・ 就職希望者(進学希望者及び専修学校等希望者の内の就職希望者を含む)は1,293人(男846人・女447人)で、前年同期と比べ7人減少している。就職希望者の卒業予定者に対する割合は18.5%で、前年同期と比べ0.1ポイント上昇している。

< 第1表 > 進路希望状況

年度	実数 (人)						割合 (%)		
	卒業 予定者 a	進学 希望者 b	専修 学校等 希望者 c	就職 希望者 d	未定者 e	(再掲) bcの内 就職 希望者 f	進学 希望率 b/a	専修 学校等 希望率 c/a	就職 希望率 (d+f)/a
26	7,137	4,785	1,026	1,309	17	9	67.0	14.4	18.5
27	7,027	4,616	1,002	1,398	11	4	65.7	14.3	20.0
28	6,979	4,795	900	1,271	13	2	68.7	12.9	18.2
29	7,047	4,775	954	1,296	22	4	67.8	13.5	18.4
30	6,991	4,740	937	1,293	21	0	67.8	13.4	18.5

## 2 進学先別希望状況

- 卒業予定者に対する大学進学希望者の割合は62.0%で、前年同期と比べ0.1ポイント上昇。

- ・ 卒業予定者に対する大学進学希望者の割合は62.0%(対前年同期比0.1ポイント上昇)、短大進学希望者の割合は5.3%(前年同期と同じ)となっている。
- ・ 進学希望者に対する大学進学希望者の割合は91.4%(前年同期と同じ)、短大進学希望者の割合は7.8%(前年同期と同じ)となっている。

<第2表> 進学先別希望状況

年度	実数 (人)					卒業予定者に対する割合 (%)				進学希望者に対する割合 (%)			
	卒業 予定者	進学 希望者	内 訳			進学 希望者	内 訳			進学 希望者	内 訳		
			大学	短大	その他		大学	短大	その他		大学	短大	その他
26	7,137	4,785	4,319	414	52	67.0	60.5	5.8	0.7	100.0	90.3	8.7	1.1
27	7,027	4,616	4,188	385	43	65.7	59.6	5.5	0.6	100.0	90.7	8.3	0.9
28	6,979	4,795	4,347	407	41	68.7	62.3	5.8	0.6	100.0	90.7	8.5	0.9
29	7,047	4,775	4,364	372	39	67.8	61.9	5.3	0.6	100.0	91.4	7.8	0.8
30	6,991	4,740	4,332	368	40	67.8	62.0	5.3	0.6	100.0	91.4	7.8	0.8

(注) ・ 「その他」は、大学・短大の別科及び通信教育部、高等学校専攻科である。

・ 卒業予定者数及び進学希望者数に対する割合は、端数処理のため、各割合を合計しても100.0%にならない場合がある。

### 3 男女別進路希望状況

進学希望状況を男女別にみると下図のようになる。( )は前年度の値。

<全体> 卒業予定者 6,991人 (7,047人)

進学 <sup>*1</sup>	専修学校等 <sup>*2</sup>	就職 <sup>*3</sup>
4,740人 67.8% (4,775人) (67.8%)	937人	1,293人
大学	(954人)	(1,296人)
4,332人 62.0% (4,364人) (61.9%)	13.4%	18.5%
短大368人(372人) 5.3%(5.3%)	(13.5%)	(18.4%)
その他40人(39人) 0.6%(0.6%)		未定21人(22人)
		0.3%(0.3%)

<男子> 卒業予定者 3,438人 (3,332人)

進学 <sup>*1</sup>	専修学校等 <sup>*2</sup>	就職 <sup>*3</sup>
2,306人 67.1% (2,202人) (66.1%)	280人	846人
大学	(292人)	(826人)
2,255人 65.6% (2,174人) (65.2%)	8.1%	24.6%
短大49人(25人) 1.4%(0.8%)	(8.8%)	(24.8%)
その他2人(3人) 0.1%(0.1%)		未定6人(12人)
		0.2%(0.4%)

<女子> 卒業予定者 3,553人 (3,715人)

進学 <sup>*1</sup>	専修学校等 <sup>*2</sup>	就職 <sup>*3</sup>
2,434人 68.5% (2,573人) (69.3%)	657人	447人
大学	(662人)	(470人)
2,077人 58.5% (2,190人) (59.0%)	18.5%	12.6%
短大	(17.8%)	(12.7%)
319人 9.0% (347人) (9.3%)		未定15人(10人)
その他38人(36人) 1.1%(1.0%)		0.4%(0.3%)

(注) ・ 卒業予定者数に対する割合は、端数処理のため、各割合を合計しても100.0%にならない場合がある。

・ \*1,\*2 就職進学者を含む。

・ \*3 就職進学者を含まない。

参 考

## 今後の教育委員会等の日程について

- 平成 30 年 8 月 10 日（金） 13:00 予定  
教育委員会 （教育委員会室）



# 『富山県学校施設長寿命化計画』 の概要



富山中部高等学校



富山総合支援学校

平成30年5月

富山県教育委員会

## 1 長寿命化計画策定の背景と目的

### ① 背景

- ・本県では、生徒急増への対応等のため、県立学校の多くが昭和40年代から50年代に建設されており、**学校施設の約7割が築30年以上経過**しています。
- ・建物本体の耐震化は平成27年度末に完了していますが、**今後、計画的な老朽化対策が必要**となっています。

### ② 目的

- ・高校教育、特別支援教育の一層の充実強化を図るため、学習活動、施設・設備、生徒の指導・支援のうち、「施設・設備」面における教育環境の質的改善・機能向上を目的として策定するものです。

## 2 学校施設の目指すべき姿

新富山県教育振興基本計画（H29～33年度）において、本県教育が**目指すべき方向**としている**9つの基本施策の実現に必要な機能・性能を備えることが求められます。**

### 《9つの基本政策》

- 基本施策1 学校、家庭、地域で取り組む子どもの成長支援
- 基本施策2 子どもの可能性を引き出し、才能や個性を伸ばす教育の推進
- 基本施策3 子どもの健やかな成長を支え元気に創造する教育の推進
- 基本施策4 社会の変化と多様なニーズに対応した高校や大学等の教育環境の充実
- 基本施策5 生涯を通じた学びの推進
- 基本施策6 ふるさとを学び楽しむ環境づくり
- 基本施策7 次世代を担う子どもの文化活動の推進
- 基本施策8 元気を創造するスポーツの振興
- 基本施策9 教育を通じた「ふるさと富山」の創生

このため、**施設整備を進める上では、①安全性、②快適性はもちろん、③多様な学習活動への適応性、④環境への適応性、⑤地域の拠点となる施設づくりも考慮すべき点**となります。

## 3 対象施設・計画期間・学校施設の実態

### ① 対象施設

- ・計画対象となる施設は、**全県立学校56校、466棟 65.1万㎡**となります。
- ・うち、**築30年以上経過は318棟 45.4万㎡**（全体の70%）を占めています。

### ② 計画期間 平成30～39年度（10年間）

### ③ 老朽化状況

- ・現時点で、利活用方針が未定の再編統合4校（33棟、5万㎡）を試算から除き、433棟を構造躯体の健全性評価等から判断すると、以下のとおりです。

**長寿命化が可能な建物：382棟（88%）**      **不可能な建物：51棟（12%）**

（可能な建物は長寿命化の方向ですが、今後の詳細調査により建替えに変更も想定されます。）

## 4 施設整備の基本的な方針

### ① 今後の維持・更新コストは、以下のとおり試算されます。

(耐用年数を迎えた施設を全て整備対象とした場合)

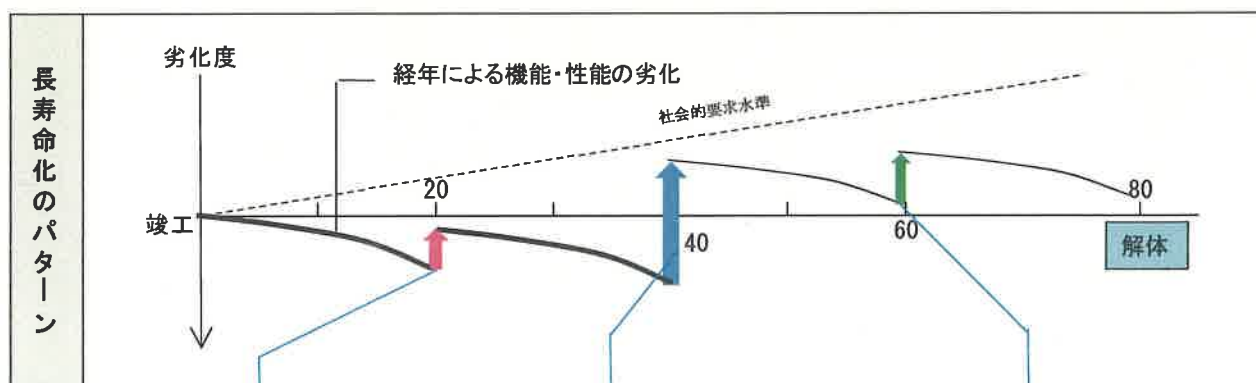
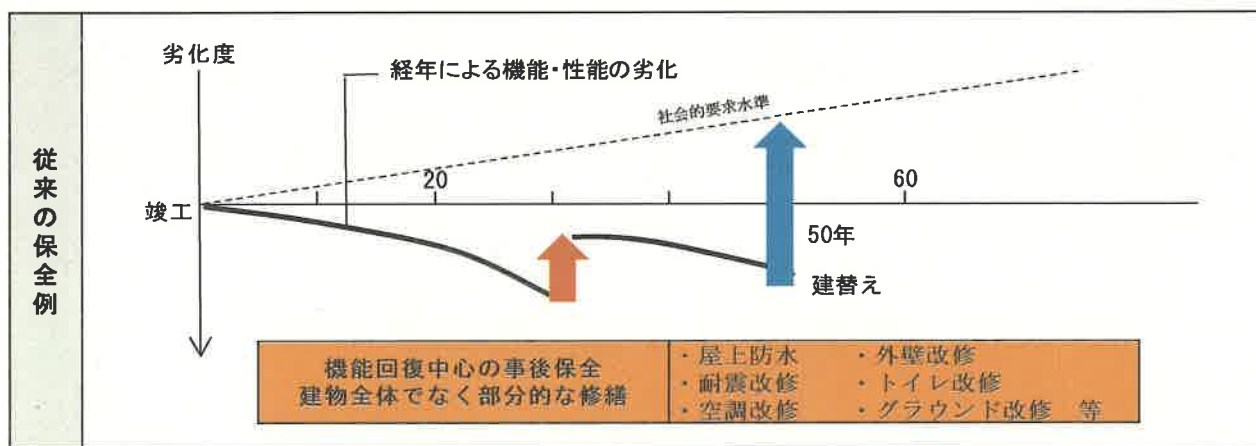
- ・築40年で建て替える『建替型』 ⇒ 今後40年間 3,387億円(年平均84.7億円)
- ・築80年まで延命する『長寿命化型』 ⇒ 今後40年間 2,706億円(年平均67.7億円)

このように、『建替型』から『長寿命化型』へ転換することにより、今後40年間で、▲681億円(20%)、年平均で▲17億円を縮減可能となります。

### ② これを踏まえ、今後の学校施設整備における基本的な方針は以下のとおりとします。

- ・長寿命化改修を中心とした老朽化対策への転換を図ります。
- ・建替えせざるを得ないと判断された建物は、当面の間、応急的な保全を適宜実施します。

《本県における従来の保全例と長寿命化のパターン》



築20年目 中規模修繕
経年劣化による損耗、機能低下に対する機能回復工事
<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋上防水改修</li> <li>・外壁改修</li> <li>・設備機器更新</li> <li>・劣化の著しい部位の修繕</li> <li>・故障、不具合修繕</li> <li>・グラウンド改修 等</li> </ul>

築40年目 長寿命化改修
経年劣化による機能回復工事と、社会的要求に対応するための機能向上工事
<ul style="list-style-type: none"> <li>・防水改修(断熱化)</li> <li>・外壁改修</li> <li>・開口部改修</li> <li>・内部改修(床、壁、天井)</li> <li>・設備改修</li> <li>・グラウンド改修 等</li> </ul>

築60年目 中規模修繕
経年劣化による損耗、機能低下に対する機能回復工事
<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋上防水改修</li> <li>・外壁改修</li> <li>・設備機器更新</li> <li>・劣化の著しい部位の修繕</li> <li>・故障、不具合修繕</li> <li>・グラウンド改修 等</li> </ul>

## 5 基本的な方針を踏まえた整備水準

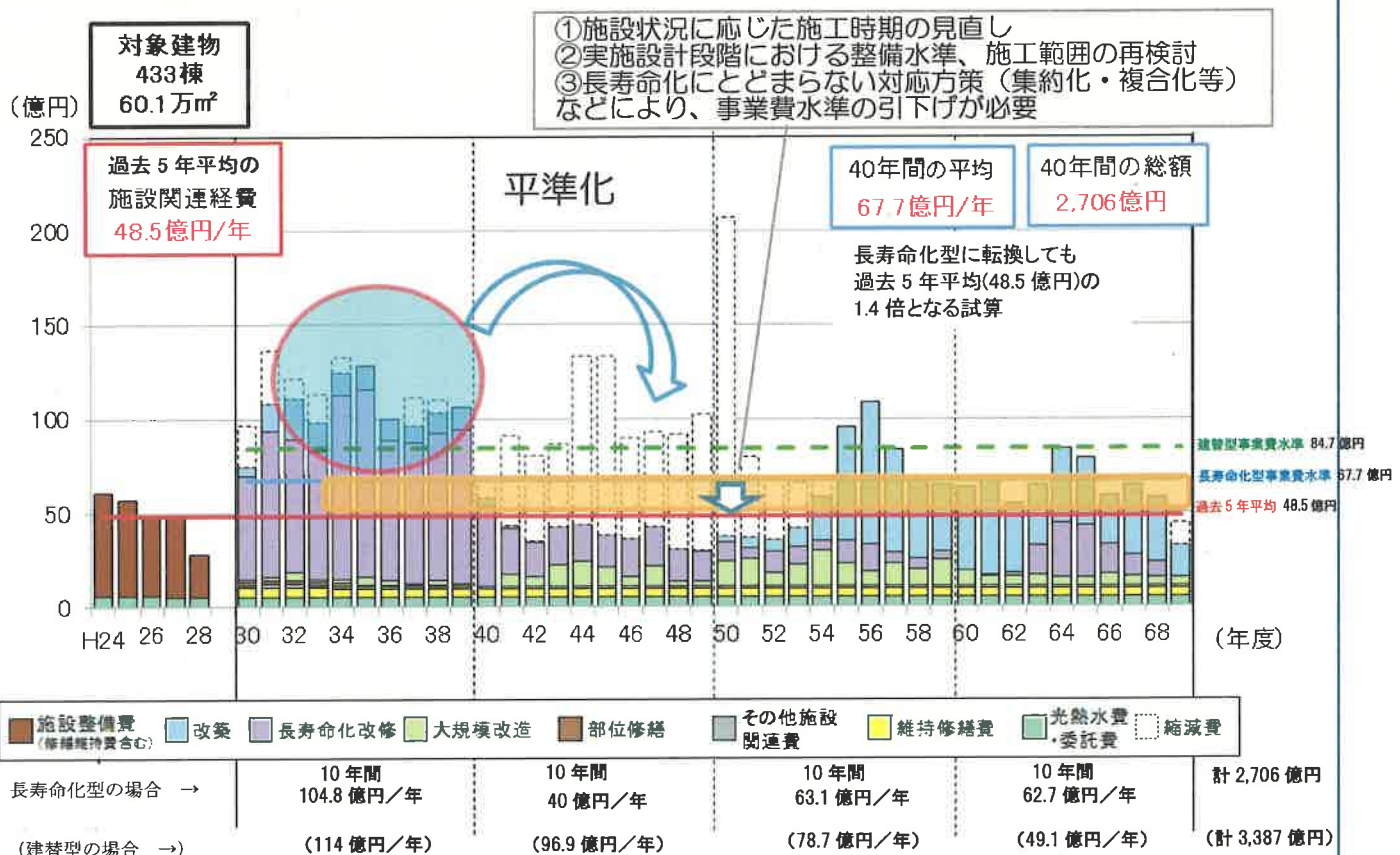
学校施設の整備にあたっては、以下の水準を基本としつつ、実施段階では経費等を勘案の上、整備水準や施工範囲の再検討を行います。

- ① 構造躯体：劣化の種類、原因、程度に応じた適切な補修を行います。
- ② 外 壁：全面塗り直しを基本とし、外壁材は耐久性の高い材料を使います。
- ③ 屋 上：全面的な防水改修を行い、耐久性や断熱性の高い材料を使います。
- ④ 設備機器：耐用年数経過のものから順次更新していきます。
- ⑤ 学習環境：余裕教室の活用等により、多様な学習ニーズに対応していきます。
- ⑥ 生活環境：断熱性能の向上、省エネ、バリアフリー化の推進等を行います。

## 6 長寿命化の実施計画

- ・設計等の準備期間（平成 31 年度 基本設計、平成 32 年度 実施設計）を経て、平成 33 年度から本格的な長寿命化改修に取り組みます。
- ・整備基準としては、再編統合や今後の児童生徒の減少を見据えた施設の集約化を図りつつ、長寿命化改修は構造躯体の健全性が良好な学校で実施します。（具体校は今後選定）
- ・長寿命化型に転換したとしても、耐用年数を迎えた施設全てを整備対象とした場合、過去 5 年間の平均経費（48.5 億円/年）の 1.4 倍の経費（67.7 億円/年）が必要となることから、施設状況に応じた施工時期の見直しや整備水準、施工範囲の再検討などにより、事業費水準の引下げ・平準化を図ります。

《今後の維持・更新コスト（長寿命化型）》



## 7 長寿命化計画の継続的な運用

計画を実効的なものとし、効率的・効果的に学校施設のマネジメントを行っていくため、以下のとおり運用方針を定めます。

### ① 情報基盤の整備と活用

- 学校施設における基本情報、劣化情報、工事履歴、経費等の情報の一元管理を目指し、基盤整備を進めていきます。

### ② 推進体制等の整備

- 学校現場における定期的な点検と、教育委員会による実態把握・事業評価に加え、以下の組織による効果的な整備の検討や計画の見直しを継続的に行います。

「富山県学校施設長寿命化計画策定ワーキング会議（H28.1.15 設置）」

学校現場（事務長会）を主体に、実態把握、新たな課題の整理、事業の進捗確認

「富山県学校施設長寿命化計画策定プロジェクトチーム（H30.3.28 設置）」

ワーキング会議等からの提案を受け、必要に応じて計画の見直しを検討

（参考）プロジェクトチームの構成

座 長	教育次長
副 座 長	教育企画課長
メンバー	財政課長 管財課長 営繕課長 県立学校課長 県高等学校長協会会長
オブザーバー	県立学校事務長会会長

### ③ フォローアップ

- 今後は事業の進捗状況、劣化調査等の結果を反映しながら、5年を目安に計画の更新を行います。

【高岡西高校 テニスコート北側境界 ブロック塀】



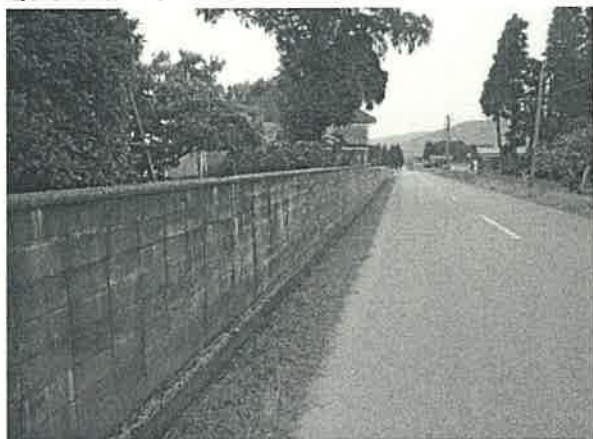
【高岡商業高校 双龍ハウス（食堂）東側境界 ブロック塀】



【南砺福野高校 志学館東側境界 ブロック塀】



【南砺福野高校 北山田農場正面 ブロック塀および門柱】



【魚津高校 図書館東側境界 ブロック塀】



【上市高校 グランド出入り口 階段擁壁】

